

市民×議会

～自分の思いを議場で発信～

第2回

ゆざわ市民一日議会

10月29日(日)、ゆざわ市民一日議会を開催しました。9名の市民の皆さんが登壇し、移住・定住、子育て支援、人口減少などのさまざまな分野にわたり、自分の思いや考えを発言しました。それぞれの視点から出されたアイデアやご意見は、どれも湯沢への熱い思いが伝わってくるものばかりで、大変貴重で有意義な時間となりました。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

VOICE ACTION とどけ!! 私の思い、僕の声



小崎 嘉純さん

湯沢市ふるさと体験まつりについて

犬っこまつりが国の無形民俗文化財に登録されることを大きな目標としている。犬っこまつりのしご細工の材料として、稲庭うどんの切れ端をアップサイクルさせ簡単に作れるキットを作成した。この“いなにわしんご”を使って体験事業を行い、湯沢市の観光産業の活性化、市民のシビックプライドの醸成につなげ、持続可能な地域ブランドとして確立していきたい。

新たな祭りを提案したい

うどんエキスポをお手本に「スイーツエキスポ」を開催したい。南中パンナコッタや市内外の和菓子や洋菓子を販売し、若者や女性を主なターゲットとすることで子供連れなど多くの人に来てもらい活性化を図りたい。宣伝にSNSを利用し、新築予定の湯沢駅周辺施設と市役所前のイベント会場を組み合わせ、集客が見込めるイベントを開催したい。



大内 一樹さん



伊藤 圭さん

移住者の目線から捉える湯沢について

地方への移住を検討する上で、仕事と住まいの情報が重要。移住者が増えない理由は収入の低さにあるのでは。収入アップのために企業の業務効率化を支援する仕組みが必要である。今ある魅力を最大限活用し移住者が住みたいと思う環境整備と適切な情報発信が大切だと思う。具体的な行動を起こし大切な故郷湯沢を残していきたい。

ゆざわ-Bizの評価、査定について

統計学の視点から令和4年度ビジネス支援センター事業評価レポートについて考察した。ゆざわ-Bizを利用して売上がアップした利用者だけではなく、市全体の景気やゆざわ-Bizを利用していない事業者の売上についても調査をすることで、ゆざわ-Bizについての本当の効果を評価することができるのではないかと。



小谷 明さん



佐々木 美空さん

湯沢市に若者を

県外から引越してきて湯沢が大好きになった。人口流出を減らすためにやるべきことは、県内外の人に市を知ってもらうことだと考える。SNSを活用した情報発信のため中・高・大学生や市民からの立候補者による「動画作成部」を結成し市と市民が協力して湯沢市を広めたい。地域・学校・行政の壁をなくし団結力を上げることで、湯沢市が変わるための第一歩を踏み出せると思う。

5年後、10年後の湯沢市の未来

子育て・高齢福祉に力を入れて、秋田県の消滅都市を挽回しませんか。出産費用や出産育児一時金、児童手当の補助などを充実させ、駅前に建設予定の複合施設には、子供たちが天候に左右されずに安心して遊べる室内遊具施設を設置してほしい。湯沢市で暮らしたい、湯沢で子供を産み育てたいと思ってもらえる市にしたい。



鈴木 義昇さん



菅 籠希さん

いつでも気軽に立ち寄って体を動かせる場所がほしい

子供もお年寄りも楽しく交流できる施設を作ってほしい。地区の小さな公園を整備し安全に遊べるようにしてほしい。アスレチックや巨大トランポリン、遊具などがあり地元のおいしいものや湯沢の魅力を紹介するコーナーがある道の駅を作ってほしい。みんなが集まれる魅力ある場所が増えれば、より楽しく活気ある市になると思う。

音楽のまちゆざわを吹奏楽で盛り上げよう

近年、市内の小中高校生は、各種コンクールで優秀な成績を収め、音楽のまちゆざわにふさわしい活躍をしている。児童生徒の頑張りを後押しするため、演奏の機会を増やすことや他市の吹奏楽部を招待して演奏発表会を行うなど、交流の機会を設けることを提案する。人員の輸送・楽器の運搬費用などを市が助成し、市民が吹奏楽に触れる機会を増やして音楽のまちゆざわを吹奏楽で盛り上げたい。



柴田 貞宏さん



池田 優奈さん

SNSでコミュニティを豊かにしたい

ローカルインフルエンサーの力を借りてSNSで地域活性化のためのイベントの内容や状況を伝え、活動を多くの人に知ってもらいたい。多くの人に興味を持ってもらうことで参加者が増え、イベントを盛り上げることができると思う。イベントを通して地域住民の地元を誇らしく思う気持ちが強まり、地域コミュニティでの支え合いや団結力が高まると思う。